

平成24年度

那須塩原市水道事業会計
決算審査意見書

那須塩原市監査委員

那塩監査第22号

平成25年8月23日

那須塩原市長 阿久津 憲二 様

那須塩原市監査委員 大場 浩一

那須塩原市監査委員 植木 弘行

平成24年度那須塩原市水道事業会計決算審査意見書の提出について

地方公営企業法（昭和27年法律第292号）第30条第2項の規定により、審査に付された平成24年度那須塩原市水道事業会計決算について、決算書及び証書類、その他関係書類を審査したので、その結果に基づき次のとおり意見書を提出します。

平成24年度那須塩原市水道事業会計決算審査意見書

1. 審査の対象

平成24年度那須塩原市水道事業会計決算

2. 審査の期間

平成25年7月19日から8月23日まで

3. 審査の方法

地方公営企業法第30条第7項の規定に基づく決算書類及び同法施行令第23条の規定に基づく決算附属書類等を、証書類その他の会計書類等と照合し、地方公営企業法第3条に規定する経営の基本原則の趣旨に従っているか否か、内容の説明と資料の提出を求めて審査した。

4. 審査の結果

審査に付された平成24年度那須塩原市水道事業会計の決算書類及び決算附属書類は、関係法令に準拠して作成されており、計数に誤りはなく、経営状況及び財政状況が適正に表示されているものと認めた。また、予算の執行状況はおおむね所期の目的に従って執行され、運営は公営企業本来の目的である公共の福祉を増進することに配慮して行われているものと認めた。

なお、決算の概要は次のとおりである。

5. 決算の概要

(1) 事業の概要

平成24年度の業務実績は次表のとおりである。

区 分	単位	平成24年度	平成23年度	対前年度比較		
				増 減	比率 (%)	
計 画 給 水 人 口	人	117,770	117,770	0	0.0	
給 水 区 域 内 人 口	人	117,223	117,842	△619	△0.5	
給 水 人 口	人	115,379	115,952	△573	△0.5	
普 及 率	%	98.43	98.40	0.03	0.0	
給 水 区 域 内 戸 数	戸	47,100	47,034	66	0.1	
給 水 戸 数	戸	46,349	46,287	62	0.1	
配 水 量	配 水 能 力	m ³ /日	69,159	71,337	△2,178	△3.1
	総 配 水 量	m ³	16,964,026	16,945,906	18,120	0.1
	一 日 最 大 配 水 量	m ³ /日	51,281	51,350	△69	△0.1
	一 日 平 均 配 水 量	m ³ /日	46,477	46,300	177	0.4
	一 人 一 日 最 大 配 水 量	ℓ/日・人	444	443	2	0.4
	一 人 一 日 平 均 配 水 量	ℓ/日・人	403	399	4	1.0
総 有 収 水 量	m ³	12,985,276	12,964,693	20,583	0.2	
有 収 率	%	76.55	76.51	0.04	0.1	
供 給 単 価	円	171.77	170.59	1.18	0.7	
給 水 原 価	円	167.93	168.37	△0.44	△0.3	

給水人口は115,379人で、普及率は、98.43%である。年間総有収水量を年間総配水量で除した有収率は、76.55%であった。なお、配水能力が前年度と比べ減少しているのは、金沢上中水源の休止等を行ったことによるものである。

(2) 予算の執行状況

① 収益的収入及び支出

予算執行状況は、次表のとおりである。

【収益的収入】

(単位：円・%) (税込)

区 分	平成 24 年度決算額	平成 23 年度決算額	比較
営業収益	2,418,869,019	2,383,006,412	1.5
営業外収益	59,805,881	59,938,038	△0.2
特別利益	14,448,856	0	皆増
合 計	2,493,123,756	2,442,944,450	2.1

前年度決算額と比較すると、2.1%増となっている。収入の主なものは、水道料金 2,341,856,229 円及び水道加入金 48,982,500 円である。

【収益的支出】

(単位：円・%) (税込)

区 分	平成 24 年度決算額	平成 23 年度決算額	比較
営業費用	1,990,882,554	1,992,103,066	△0.1
営業外費用	234,462,693	235,995,873	△0.6
特別損失	6,159,895	39,895,781	△84.6
合 計	2,231,505,142	2,267,994,720	△1.6

前年度決算額と比較すると、1.6%減となっている。支出の主なものは、北那須水道受水費 555,779,535 円、有形固定資産減価償却費 789,375,269 円、企業債利息 226,971,514 円である。

② 資本的収入及び支出

予算執行状況は、次表のとおりである。

【資本的収入】

(単位：円・%) (税込)

区 分	平成 24 年度決算額	平成 23 年度決算額	比較
企業債	485,200,000	514,800,000	△5.7
負担金	9,354,450	17,001,445	△45.0
補償金	16,613,944	910,343	1,725.0
補助金	197,316,000	190,000,000	3.9
一般会計補助金	34,794,478	39,051,964	△10.9
合 計	743,278,872	761,763,752	△2.4

前年度決算額と比較すると、2.4%減となっている。その主な理由は、企業債のうち地方公共団体金融機構資金 26,000,000 円の減によるもの。収入の主なものは、企業債 485,200,000 円、水道水源開発等施設整備費国庫補助金 197,316,000 円である。

【資本的支出】

(単位：円・%) (税込)

区 分	平成 24 年度決算額	平成 23 年度決算額	比較
建設改良費	1, 146, 180, 007	1, 290, 450, 716	△11. 2
固定資産購入費	1, 256, 880	496, 812	153. 0
量水器費	1, 491, 970	1, 395, 460	6. 9
企業債償還金	374, 481, 218	395, 109, 508	△5. 2
合 計	1, 523, 410, 075	1, 687, 452, 496	△9. 7

前年度決算額と比較すると、9.7%減となっている。その主な理由は、建設改良費では浄水設備費 83,815,200 円と配水設備拡張費 60,455,509 円及び企業債償還金 20,628,290 円の減によるものである。

支出の主なものは、建設改良事業では、老朽管更新事業として配水管の布設替工事 16,332.5 mを 716,060,100 円、配水管整備事業として配水管の布設工事 6,317.0mを 269,510,850 円で行った。

以上の結果、資本的収入額が資本的支出額に対して生じた不足額の補てん状況は、次のとおりである。

【資本的収支の不足額補てん内訳表】

(単位：円・%)

区 分	平成 24 年度	平成 23 年度	比較
当年度消費税及び地方消費税資本的収支調整額	39, 405, 527	46, 605, 151	△15. 4
過年度損益勘定留保資金	33, 513, 526	0	皆増
当年度損益勘定留保資金	707, 212, 150	763, 267, 722	△7. 3
建設改良積立金	0	115, 815, 871	皆減
合 計	780, 131, 203	925, 688, 744	△15. 7

(3) 経営成績 [損益計算書 (消費税抜)]

経営成績は次表のとおりである。

(単位:円・%)

区 分	平成24年度	平成23年度	比較
事業総収益決算額 A	2,377,848,944	2,329,119,140	2.1
総費用決算額 B	2,186,562,966	2,222,529,105	△1.6
当年度純利益C (A-B)	191,285,978	106,590,035	79.5
前年度繰越利益剰余金D(前年度繰越欠損金)	0	0	0
当年度未処分利益剰余金E (C+D)	191,285,978	106,590,035	79.5

事業総収益決算額 (A)、総費用決算額 (B) の内訳は、次表のとおりである。

【事業総収益決算額内訳表】

(単位:円・%)

区分	平成24年度		平成23年度		増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
営業収益	2,305,095,634	97.0	2,270,710,005	97.5	1.5
水道料金	2,230,460,320	93.8	2,211,700,001	95.0	0.8
水道加入金	46,650,000	2.0	35,800,000	1.5	30.3
その他営業収益	27,985,314	1.2	23,210,004	1.0	20.6
営業外収益	58,304,454	2.4	58,409,135	2.5	△ 0.2
受取利息及び配当金	788,830	0.0	1,466,992	0.1	△ 46.2
他会計補助金	20,026,538	0.8	20,769,245	0.9	△ 3.6
雑収益	37,489,086	1.6	36,172,898	1.5	3.6
消費税及び地方消費税還付金	0	0.0	0	0.0	0.0
特別利益	14,448,856	0.6	0	0.0	皆増
収益合計	2,377,848,944	100.0	2,329,119,140	100.0	2.1

【総費用決算額内訳表】

(単位：円・%)

区 分	平成24年度		平成23年度		増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比	
営業費用	1,944,082,885	88.9	1,946,305,172	87.6	△0.1
原水及び浄水費	789,621,333	36.1	787,862,663	35.4	0.2
配水及び給水費	172,424,654	7.9	210,267,707	9.5	△18.0
総係費	185,278,185	8.5	192,670,163	8.7	△3.8
減価償却費	789,530,269	36.1	749,442,027	33.7	5.3
資産減耗費	7,228,444	0.3	6,062,612	0.3	19.2
その他の営業費用	0	0.0	0	0.0	—
営業外費用	236,550,174	10.8	236,600,023	10.6	0.0
支払利息及び企業債取扱諸費	226,971,514	10.4	228,232,790	10.2	△0.6
雑支出 他	9,578,660	0.4	8,367,233	0.4	14.5
特別損失	5,929,907	0.3	39,623,910	1.8	△85.0
費用合計	2,186,562,966	100.0	2,222,529,105	100.0	△1.6

㉞ 供給単価と給水原価

有収水量1 m³当たりの供給単価及び給水原価は、次表のとおりである。

(単位：円)

区分	平成24年度	平成23年度
供給単価	171.77	170.59
給水原価	167.93	168.37
差 額	3.84	2.22

㉟ 収 益 率

収益率は、次表のとおりである。営業収支比率は、業務活動の能率を示すもので、比率が高いほど良好である。総収支比率は、収益と費用の総対的な関連を示すもので、同じく比率が高いほど良好である。

(単位：%)

区分	平成24年度	平成23年度
営業収支比率	118.6	116.7
総収支比率	108.7	104.8

※営業収支比率＝営業収益÷営業費用×100

※総収支比率＝総収益÷総費用×100

(4) 財政状況

貸借対照表（消費税抜）によると、当事業年度の財政状況は次のとおりである。

㊦ 資産

(単位：円・%)

区 分	平成24年度		平成23年度		増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比	
固定資産	23,716,987,560	90.8	23,334,363,280	91.0	1.6
有形固定資産	23,655,709,524	90.6	23,272,971,634	90.8	1.6
無形固定資産	1,992,863	0.0	2,147,863	0.0	△ 7.2
投 資	59,285,173	0.2	59,243,783	0.2	0.1
流動資産	2,407,511,385	9.2	2,275,926,740	8.9	5.8
現金及び預金	2,228,085,428	8.5	2,090,087,001	8.2	6.6
その他の流動資産	179,425,957	0.7	185,839,739	0.7	△ 3.5
繰延資産	3,890,004	0.0	11,381,183	0.1	△ 65.8
合 計	26,128,388,949	100.0	25,621,671,203	100.0	2.0

㊧ 負債・資本

(単位：円・%)

区 分	平成24年度		平成23年度		増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比	
固定負債	363,307,776	1.4	358,921,621	1.4	1.2
流動負債	396,858,165	1.5	524,428,479	2.0	△ 24.3
負債計	760,165,941	2.9	883,350,100	3.4	△ 13.9
資本金	13,439,597,278	51.4	13,328,878,496	52.0	0.8
剰余金	11,928,625,730	45.7	11,409,442,607	44.6	4.6
資本計	25,368,223,008	97.1	24,738,321,103	96.6	2.5
合 計	26,128,388,949	100.0	25,621,671,203	100.0	2.0

㊨ 財務比率

企業としての短期の流動、つまり支払能力を示す流動比率・酸性試験（当座）比率は、次表のとおりである。

流動比率は、1年以内に現金化できる資産と支払わなければならない負債とを比較するものである。流動性を確保するためには、流動資産が流動負債の2倍あることが望まれるので、理想比率は200%以上である。

酸性試験比率は、当座比率の別名で、流動資産のうち現金預金及び容易に現金化する未収金などの当座資産と流動負債とを対比させたもので100%以上が理想比率とされている。

一般的に望ましいとされる流動比率200%、酸性試験（当座）比率100%を大幅に上回っており、良好な状態となっている。

(単位：%)

区 分	平成24年度	平成23年度
流動比率	606.6	434.0
酸性試験(当座)比率	596.2	424.6

※ 流動比率＝流動資産÷流動負債×100

※ 酸性試験比率＝（現金預金＋未収金）÷流動負債×100

長期の健全性を示す資産、負債及び資本の構成比率は、次表のとおりである。固定資産及び流動資産の構成比率は、それぞれ総資産に対する固定資産・流動資産の占める割合である。固定資産構成比率が大きく、資産が固定化の傾向にあるといえる。

また、固定負債、流動負債及び自己資本構成比率は、総資本（資本＋負債）とこれを構成する固定負債・流動負債・自己資本の関係を示すもので、自己資本構成比率が大きく、経営の安全性が高くなっているといえる。

(単位：%)

区分	平成24年度	平成23年度
固定資産構成比率	90.8	91.1
流動資産構成比率	9.2	8.9
固定負債構成比率	38.9	39.2
流動負債構成比率	1.5	2.0
自己資本構成比率	59.6	58.8

※ 固定資産構成比率 ＝ 固定資産÷総資産×100

※ 流動資産構成比率 ＝ 流動資産÷総資産×100

※ 固定負債構成比率 ＝ (固定負債＋借入資本金)÷(負債＋資本)×100

※ 流動負債構成比率 ＝ 流動負債÷(負債＋資本)×100

※ 自己資本構成比率 ＝ 自己資本(自己資本金＋剰余金)÷(負債＋資本)×100

6. 意見

那須塩原市の水道事業は、平成17年の市町合併後、事業統合、料金体系及び水道加入金の統一、開閉栓手数料改定、老朽管更新工事や配水管整備事業等の安心安全な水の安定供給を継続するための事業を行っている。

平成24年度は、老朽管16,332.5mの更新、配水管6,317.0mの布設工事を行った。また的確な資産管理を通じ中長期的な財政収支の見通しと計画的な更新投資を目的とした「アセットマネジメント計画策定業務」を開始したところである。なお23年度から引き続いて東京電力福島第一原発事故に伴う放射性物質の水道水中への影響を確認するため、放射能分析業務委託を行い、原水及び水道水の放射性物質について継続的に測定している。

これらのことから近い将来予想される給水人口の減少下においても、健全経営のもと安心で安定的な供給を続けるための事業は、着実に実行されているものと言える。なお、平成23年度に引き続いて原発事故に伴う放射能問題は未だ終息してないことから、引き続き安心で安全な水の供給を維持するために、さらなる努力を願いたい。

業務実績についてみると、普及率98.43%（前年度98.40%）、有収率76.55%（前年度76.51%）となっている。老朽管更新工事を毎年進めているため、有収率については向上するものと考えられるが、前年度と比較してほとんど変わらない状況である。老朽管更新工事で本管内の水圧が上昇したため、老朽化している別の箇所での新たな漏水が発生しているということも考えられるが、原因究明と対策の検討を早急に行うよう要望する。

営業成績についてみると、事業総収益2,377,848,944円に対し総費用は2,186,562,966円で、純利益191,285,978円を前年度の純利益106,590,035円と比較すると79.5%の増となっている。主な理由は、水道料金統一に伴う段階的な給水収益の増、東京電力原子力損害賠償金の皆増、特別損失等の減によるものである。今後は、老朽管更新工事等による減価償却費の増加や給水人口の減少による給水収益の減少等が予想されるため、有収水量の大幅な伸びは期待できないことから、経営の合理化、効率化等で経費の節減を図り、純利益の確保に努められたい。

水道料金の徴収については、収納率95.18%であり、前年度と比較すると0.08ポイント上昇している。収納率は、合併後から毎年向上している。不納欠損に関しては、4,145,376円・533件あり、前年度の5,109,982円・881件と比較すると、964,606円（18.9%）・348件（39.5%）の減となっている。

滞納対策については、滞納整理の早期着手や給水停止の実施を基本方針とし、滞納者の実態調査や新規滞納者の抑制、コンビニ収納の促進等の努力がなされている。引き続き、負担の公平性を確保するため、効果的な収納体制の下、滞納整理の早期着手及び給水停止の適切な運用等により、収納率の向上及び収入未済や不納欠損の減少に努められたい。

本水道事業は地方公営企業法に基づく事業であり、公営企業の基本原則である公共の福祉の増進を図るとともに、常にその経済性が要求されるものであるから、健全経営を図り、安心安全な水の安定供給に一層の創意工夫と努力を重ねられることを念願して決算審査の報告とする。